

社会保障審議会介護保険部会（第21回）提出資料

介護保険部会委員 秦 洋一

## ★緊急アピール 誰もが安心して暮らせるまちにするために！

介護保険は、来春の国会に向けて見直しを進めている最中ですが、当初からの課題になっている「被保険者・給付者の年齢層拡大」が強い抵抗にあってもめています。公明党は9日、付則にすることにやっと合意しました。しかし、自民党は「付則」をつけることさえ拒もうとしています。民主党は拡大に前向きの方が多いようですが、まだ結論は出ていません。ここ1両日が山場なのです。

私はこう考えますー交通事故で高次脳機能障害を起こしている方々はもちろん、がんの末期や40歳未満で脳障害になっても、何の介護サービスも受けられない人々が大勢います。身体に障害を持つ人、知的な障害を持っている人、精神の障害を持っている人も含めて、生まれてから老いてゆくまで、誰もが安心して暮らせるまちにするのは、ごく普通のことではないでしょうか？

企業に勤めている（新聞社も放送局も！）人、官庁の仕事をしている人、医療に携わっている人…仕事をして家庭に帰っているときは平凡な市民のひとりです。

私が理事をしている「知的障害者の社会参加の場を広げる」NPOにも、東京電力から50代の方が派遣されてきて、よい仕事をされています。NECの社会貢献室の方は、障害者を持つ人びとをみんなの輪で包み込む場を盛り上げています。そのような社会貢献をしている企業ボランティアが地域に増えています。「企業ボランティア」に関心がない、利益だけを追求するような企業はやがてそっぽを向かれるでしょう。

“余ったものやお金を”使っているだけでは、ボランティアとはいえません。“自分の身が痛む”こと、それによって自分自身が豊かになってゆく人々こそがボランティアではないでしょうか。

この月曜の朝に地元の市議会を覗きました。ところが一般質問に立った若い商工会の議員が、何と「街のバリアフリー化と、ユニバーサルデザイン化」を主張されているではありませんか。時代は急速に変わっています。このほどお会いした、ある市の歯科医は、入れ歯をうまく作っているのが歯科医の仕事だろうか、と疑問を持ち始め、お年寄りの入れ歯でも楽に食べられる食事や食器の開発に始まり、ついにはユニバーサルデザインの町づくりを、市役所と一緒に進めていました。

老いも若きもお互いに助け合うー介護保険の年齢層を広げるのは果たして、「新たな負担だけが…」ということになるのでしょうか？マスコミに携わる方も、わが身の問題として真剣に取り組んでください。